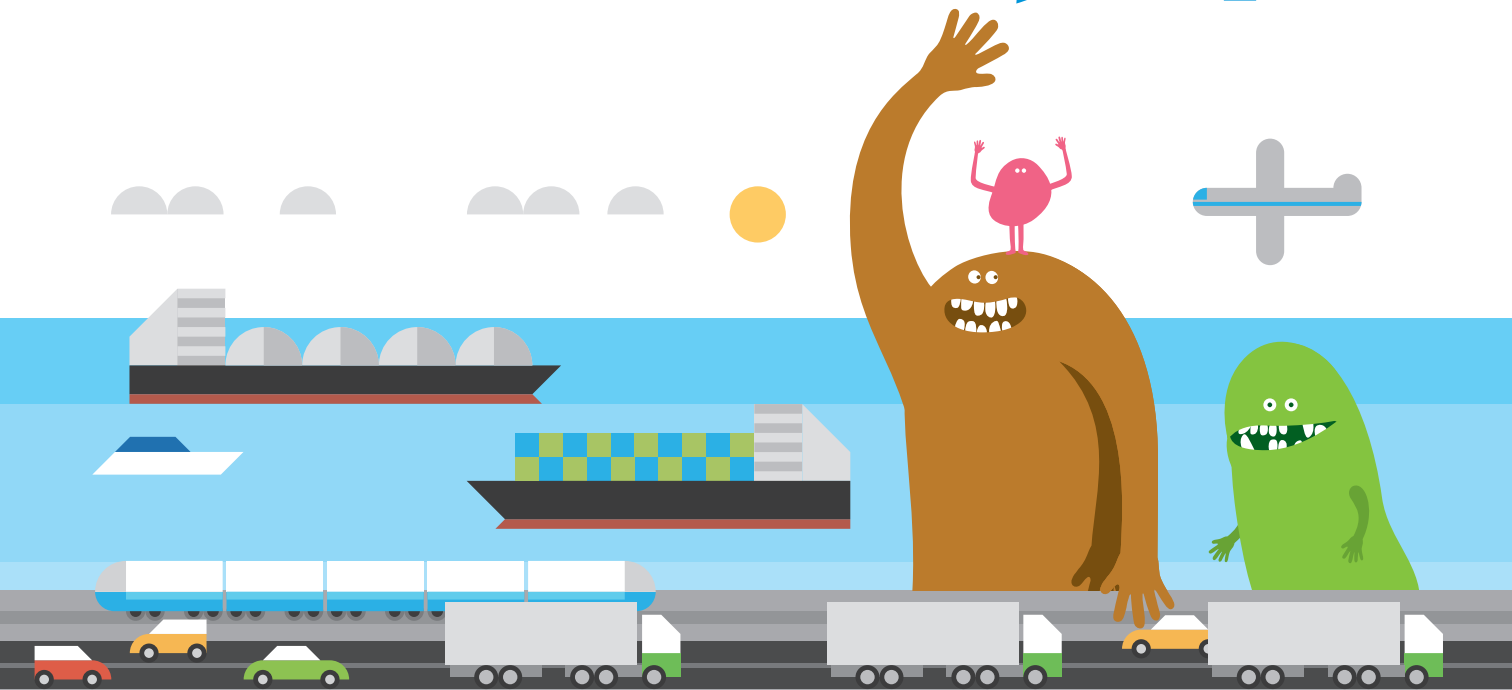


Nabtesco

第17期 中間 | 2019.1.1~2019.6.30 |

ナブテスコ通信



ウェブサイトのご案内

当社Webサイトでは、当社に関する
さまざまな情報を発信しています。

<https://www.nabtesco.com>

ナブテスコ

検索



Youtube公式チャンネルのご案内 NabtescoPromotion

TVCMや会社案内などを映像でも
ご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/user/NabtescoPromotion>



ナブテスコ 株式会社

証券コード:6268



独創的なモーションコントロール技術で、 社会課題の解決に貢献し、 持続的な価値創造に努めて参ります。

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。
ここに当社第17期(2019年12月期)上半期の営業状況をご報告し、中期経営
計画に基づく今後の成長戦略についてご説明させていただきます。

代表取締役社長 寺本克弘

当第2四半期連結累計期間の業績について

第17期(2019年12月期)の第2四半期連結累計期間の業績は、トランスポートソリューション事業およびアクセシビリティソリューション事業を中心に前年同期を上回る受注高を確保しました。売上高は、前年同期比で微減となりましたが、営業利益は、前年に計上した海外連結子会社に係るのれんの減損損失による影響がなくなったことに加え、アクセシビリティソリューション事業の増益も寄与し、前年同期比で増益となりました。

営業状況をセグメントごとに振り返ると、コンポーネントソリューション事業は、中国における建設機械需要の継続により、油圧機器が好調に推移したものの、精密減速機が世界的な設備投資の冷え込みを受けたことから、減収減益となりました。

トランスポートソリューション事業は、航空機器が民間航空機向けの増産により売上高を伸ばしたことに加え、中国地下鉄向けの売上高が増加した鉄道車両用機器、国内市場が堅調に推移した商用車用機器、市況が回復傾向を示した船用機器など、それぞれが寄与し増収となり、前年の減損損失の影響もなくなり大幅増益となりました。

アクセシビリティソリューション事業は、自動ドアの好調な国内需要により、増収増益となりました。

以上の結果、全体の受注高は、1,517億3千3百万円(前年同期比4.2%増)、売上高1,422億9千2百万円(同0.2%減)、営業利益120億1千1百万円(同88.1%増)、税引前四半期利益134億8千8百万円(同3.5%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益77億6百万円(同2.3%減)となりました。



第2四半期連結決算情報

| | | | |
|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------|---------------|
| 売上高 1,423 億円 前年同期比 △0.2% ↓ | 営業利益 120 億円 前年同期比 88.1% ↑ | 親会社の所有者に 帰属する四半期利益 77 億円 前年同期比 △2.3% ↓ | 中間配当金 36 円 |
|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------|---------------|

セグメント別情報

| | 売上高(百万円) | | 営業利益(百万円) | |
|-------------------|----------|---------------|-----------|----------------|
| コンポーネントソリューション事業 | 56,211 | 前年同期比 △6.0% ↓ | 8,544 | 前年同期比 △19.3% ↓ |
| トランスポートソリューション事業 | 40,055 | 前年同期比 5.3% ↑ | 3,027 | — |
| アクセシビリティソリューション事業 | 38,221 | 前年同期比 5.9% ↑ | 3,359 | 前年同期比 129.7% ↑ |
| その他 | 7,805 | 前年同期比 △9.5% ↓ | 868 | 前年同期比 △32.1% ↓ |
| 全社または消去 | — | — | △3,786 | — |
| 合計 | 142,292 | 前年同期比 △0.2% ↓ | 12,011 | 前年同期比 88.1% ↑ |

2019年度は、中期経営計画の最終年度へ準備を整える重要な1年です。さらなる飛躍に向けた事業基盤の強化を行います。

当社グループは、2017年度から2020年度までの4年にわたる中期経営計画を推進中です。本計画では、「Market Creation」、「Technology Innovation」、「Operational Excellence」の三つを柱とする成長戦略を遂行しています。

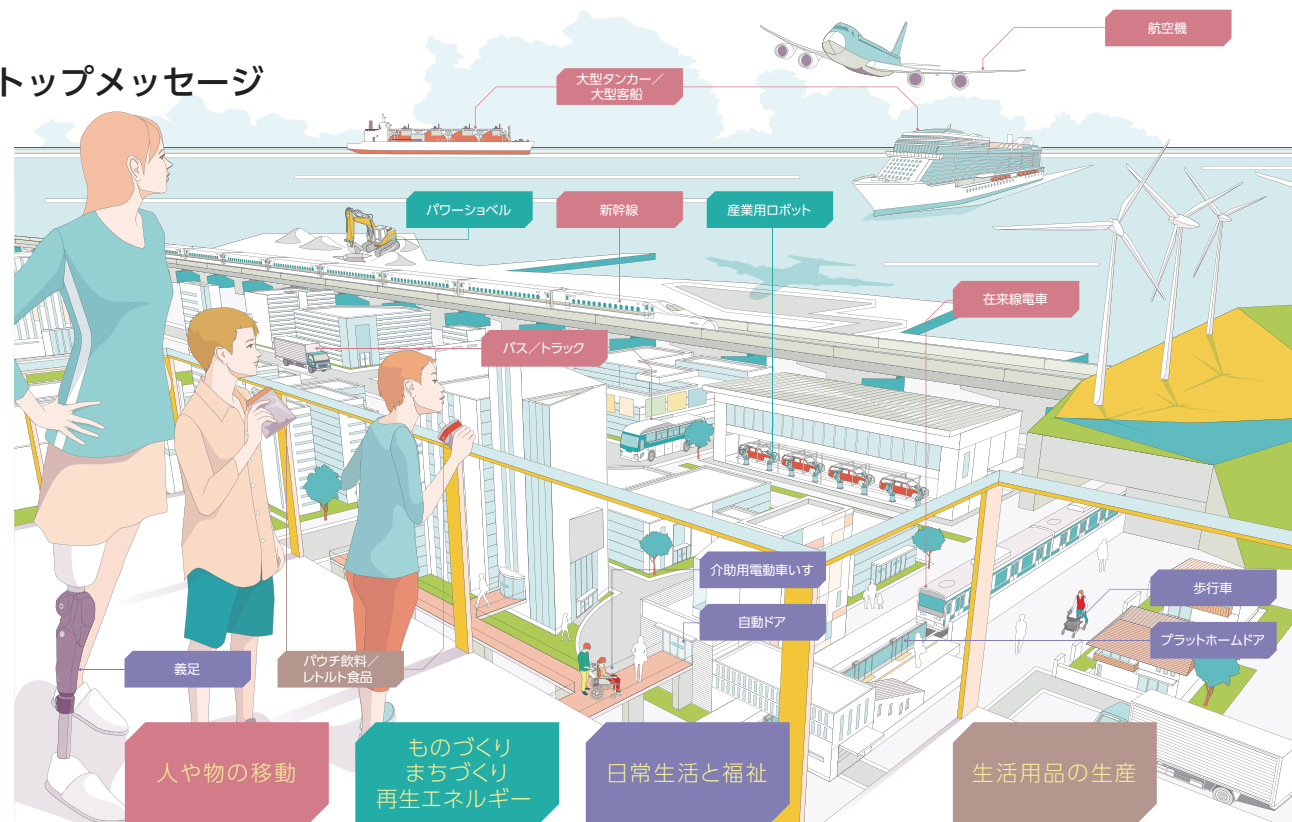
「Market Creation」では、海外展開を加速しています。中国における油圧機器および精密減速機では、現地生産体制の拡充、鉄道車両用機器では、中国地下鉄向け需要を取り込むべく積極展開を図っています。東南ア

ジアでは、タイに設置したMRO*拠点を通じ、鉄道事業者からの需要獲得に取り組んでいます。

*Maintenance, Repair, Overhaul:アフターサービス事業

「Technology Innovation」では、既存のコンポーネント(機械部品)製品から新たなソリューションの創造に取り組んでいます。2018年度に精密減速機と自動ドアの次世代製品を上市し、航空機器では新機種向けの出荷が増加するなど、売上高に占める新製品の割合を年々高めています。技術開発の面では、油圧機器および包装機における新技術の開発を進める一方、前期に設立したコーポレート・ベンチャーキャピタル業務の中核を担うNabtesco Technology Ventures AG(NTV)を本格稼働させ、スタートアップ企業との共創によるオープン・イノベーション

トップメッセージ



を促進しています。

「Operational Excellence」では、生産改革、業務改革による収益性向上と組織の活性化、人財活用的高度化によるオペレーション基盤の強化を進めています。全社横串での生産改革を継続するとともに、在庫オペレーションの改善などの施策を遂行しています。業務改善にあたってはIT活用による自動化を実施するとともに、AI(人工知能)の活用も検討し、自社内での研究に着手しています。また、働き方改革への取り組みでは、業務改革推進室を中心に、業務の棚卸しと分析を行い、またサテライトオフィスや在宅勤務制度を導入し、多様な働き方を実現できる体制を整えています。

これまでのところ、中期経営計画の成長戦略は、着実に進展し、成果を上げています。残る1年半の取り組みを通じて、資本効率をさらに高めながら、ものづくりの力を強化し、グローバルな事業拡大と新たな成長性の確保に向けた基盤を築き上げていきます。

中期経営計画に掲げる三つのコミットメントを達成すべく、積極的な取り組みを継続していきます。

中期経営計画では、コミットメントとして「ROE15%達成」「連結配当性向35%以上」「ESG課題の解決に注力」を掲げています。

まず「ROE15%達成」について述べますと、当期のROEは12.3%を予想しており、コミットメント達成の途上にあります。早期に15%に引き上げ、維持していく方針です。そのための具体策として、ROEの構成要素である売上高利益率および総資産回転率の改善を図ります。

売上高利益率の改善では、売上高の成長と営業利益率の向上を追求します。特に、生産・販売数量の変化が収益性に大きく影響するコンポーネントソリューション事業を中心に、生産設備の稼働益を取り込んで収益性の向上につなげるべく、中長期的な需要が見込まれる精密減速機事業の生産能力増強や、油圧機器事業における製品のモジュール化・システム化を進めていく考えです。

総資産回転率の改善では、ROIC(事業活動のために投じた資本を使って、企業がどれだけ効率的に利益に結びつけているかを示す指標)を社内管理指標として導入しています。さらに「ROIC改善度」を事業部門の業績評価にインセンティブとして加えており、事業資産の有効活用を促進し、株主・投資家の皆さまの視点を事業運営に反映してまいります。

「連結配当性向35%以上」について述べますと、今回の中間配当は1株当たり36円とさせていただいており、通期の連結配当性向は39.5%となる見込みです。当社は今後、長期的な競争力の確保に向けて、需要を見据えた生産性向上への投資を積極的に実施する方針ですが、これらの成長投資と連結配当性向35%以上の株主還元を両立させ、利益成長に応じて配当額を継続的に拡大していきます。

当社グループのくわしいIR情報
Nabtesco ホーム > IR情報 > IRライブラリー
→ <https://www.nabtesco.com/ir/library/>



「ESG課題の解決に注力」に関しては、経済合理性を前提としつつ、課題に体系的に取り組むことで価値創造の持続を図り、ステークホルダーの期待に応えたいと考えています。例として環境面の取り組みでは、環境設備投資を積極的に実施し、グループ拠点への太陽光発電システム導入を進めています。またTCFD^{*}提言に沿って、気候変動によるリスクと機会への財務的影響を把握していきます。

^{*}気候変動関連財務情報開示タスクフォース

幅広い領域で展開する事業を通じて、さまざまな社会課題の解決に貢献してまいります。

当社グループの事業は、多くの産業分野の発展を促し、人々の安全・安心・快適で豊かな暮らしに寄与するものと自負しています。その取り組みは、環境負荷の低減と業務の効率化・自動化を促進しつつ、各市場の安定供給を支え、地域経済の成長に寄与し、雇用の創出をもたらすなど、さまざまな社会課題の解決につながる広がりを有しています。(事業活動を通じた社会課題の解決は、P5に特集記事を掲載しています。)

当社グループは、長年にわたって受け継ぎ、進化させてきた「うごかす、とめる。」の独創的なモーションコントロール技術に磨きをかけながら、さらなる飛躍に向けてイノベーションに挑み、未来の価値創造を果たしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも当社グループへ末永くご支援を賜りますようお願い申し上げます。



社会課題に挑む、産学官連携プロジェクト トラック隊列走行用ブレーキシステム開発

2系ブレーキ用
バルブモジュール



社会課題

ドライバー不足
CO₂排出量削減

当社子会社のナブテスコオートモーティブ株式会社は、システム全体の開発を手がけるメーカーへとステップアップすべく、ソフトウェア開発にも取り組んでおり、2016年より経済産業省と国土交通省が主導する「トラック隊列走行」の研究開発プロジェクトへの参画企業の一社として、非常時に備えた「ブレーキ二重化」のシステム、コンポーネント開発を担当しています。

当社グループ内の電子制御開発技術を結集し、新しいソフトウェア開発手法も積極的に取り入れながらシステム設計・試作に挑み、2018年1月と2019年1月に新東名高速道路で2回の実証実験が行われるなど、約3年で公道での実証実験が可能なブレーキを完成させました。

この経験をシステムメーカーとしての確かな、大きな一歩として、今後さらなる飛躍を目指していきます。

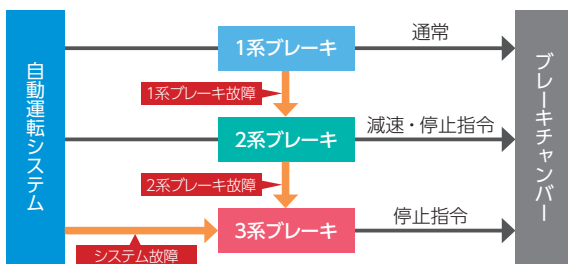


トラック隊列走行って、ナンデスコ?

複数台のトラックが連なり、先頭車両のみドライバーが運転し、2台目以降は自動運転で走行し、先頭車両のハンドル操作やアクセル、ブレーキなどに合わせて追従します。高速道路などでの長距離輸送に導入することでドライバー不足の解消に加え、車間距離を縮めることで後続車両の受ける空気抵抗が弱まり、CO₂排出量の削減の効果も期待できます。

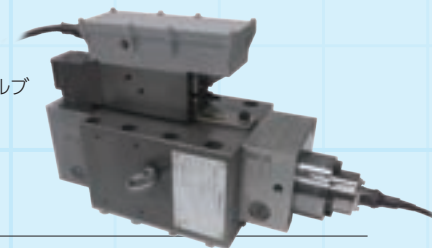
ブレーキ二重化って、ナンデスコ?

自動運転の実用化のための安全装置となるシステムです。1系ブレーキが故障した際に起動してブレーキ制御を担う「2系ブレーキ」と、2系ブレーキが故障または隊列走行のシステム自体に不具合が発生した際に減速・強制停止させる「3系ブレーキ」の2種類があります。



先端技術で製品状態を「見える化」! 状態基準保全 (CBM) を実用化

電子制御油圧バルブ
「FIVAバルブ」



社会課題

船舶の安全航行

当社では船舶が安全に航行するために、船舶ごとのカルテに基づくきめ細かなメンテナンスサービスの提供にも力を入れています。

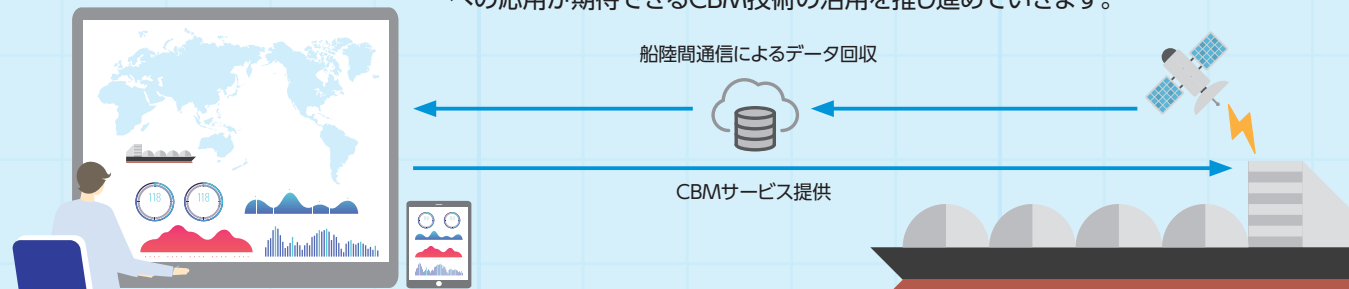
電子制御油圧バルブ「FIVAバルブ」は、外見から内部の状態が確認できないため、メンテナンスの必要性を感じてもらうのに難しいところがありました。そこで、状態基準保全(CBM)という状態監視手法に着目し、同手法を実施可能となるデータ収集BOXを製品化しました。

船用2サイクル電子制御主機関に使用される油圧バルブに状態監視BOXを装備することで、重要コンポーネントである比例制御弁の状態をモニタリングし、取得したデータを当社独自のアルゴリズムを用いた解析でバルブの劣化や異常を予測することで、最適なタイミングでのメンテナンスが可能となります。お客さまにとっては、保守コストの低減や緊急修理のための停泊時間を極小化できるようになります。

今後は、他の製品のメンテナンスサービスや工場の設備保全など、さまざまな場面への応用が期待できるCBM技術の活用を推し進めていきます。



Nabtesco データ分析



状態基準保全 (CBM) って、ナンデスコ?

Condition Based Maintenanceの略で、製品の状態に応じてメンテナンスを行うことです。不具合の発生を未然に防ぐことはもちろん、不要な交換も防ぐことができ、安定稼働、コスト低減につながっています。



WWFジャパン発表 「企業の温暖化対策ランキング 機械・精密機器編」機械業種で第1位

当社は、WWFジャパン(公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)がこの度発表した「企業の温暖化対策ランキング 機械・精密機器編」機械業種で第1位となりました。

WWFは、世界約100カ国で活動している地球環境保全団体で、その日本支部であるWWFジャパンは、日本企業の温暖化対策の取り組みを同一の指標を用いて業種ごとに評価するプロジェクトを進めています。

この度第9弾として発表された「機械・精密機器編」では、「温暖化対策の情報開示」「目標・実績」について、機械・精密機器に関する日本企業を対象に行われました。当社は「情報開示」「目標・実績」の双方において高得点を挙げ、総合で第1位となりました。

今後も、持続可能な社会の実現に向けて、環境・社会の諸課題の解決に取り組み、さまざまな活動を推進するとともに積極的に情報開示をまいります。



ナブテスコグループ2工場が 「国土強靱化貢献団体認証(レジリエンス認証)」を取得



当社の神戸工場とナブテスコオートモーティブ株式会社 山形工場の2工場が、2018年度第3回認証審査において、「国土強靱化貢献団体認証(レジリエンス認証)」を取得しました。当社グループでは、実効性のあるBCP(事業継続計画)の刷新に着手し、主要な事業拠点の全てが本認証取得を目指して活動しております。また、昨年度より、取引のある重要なサプライヤーにもBCP策定を支援し、本認証の取得も推奨しています。

このように、自社グループでの事業継続のみならず、サプライヤーと一体となったサプライチェーンの視点で BCPの活動に取り組み、災害や危機に強い企業を目指してまいります。

| 神戸工場 | 山形工場 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| 主要生産品 <ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道車両用ブレーキシステム ● 鉄道車両用ドア開閉装置 | 主要生産品 <ul style="list-style-type: none"> ● 大型商用車用ブレーキ機器 ● 乗用車用クラッチ関連機器 |

■ 株主さまアンケートにご協力いただきありがとうございました

前回の株主通信に同封しましたアンケートに、4,348名の方からご回答をいただきました。

今後の経営・IR活動に役立ててまいります。

アンケート結果は当社Webサイトでご覧いただけます。→https://www.nabtesco.com/ir/library/biz_report/index.html



ナブテスコ 株式会社

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目7番9号
TEL:03-5213-1133 FAX:03-5213-1171

UD
FONT

